

資料 3 - 1

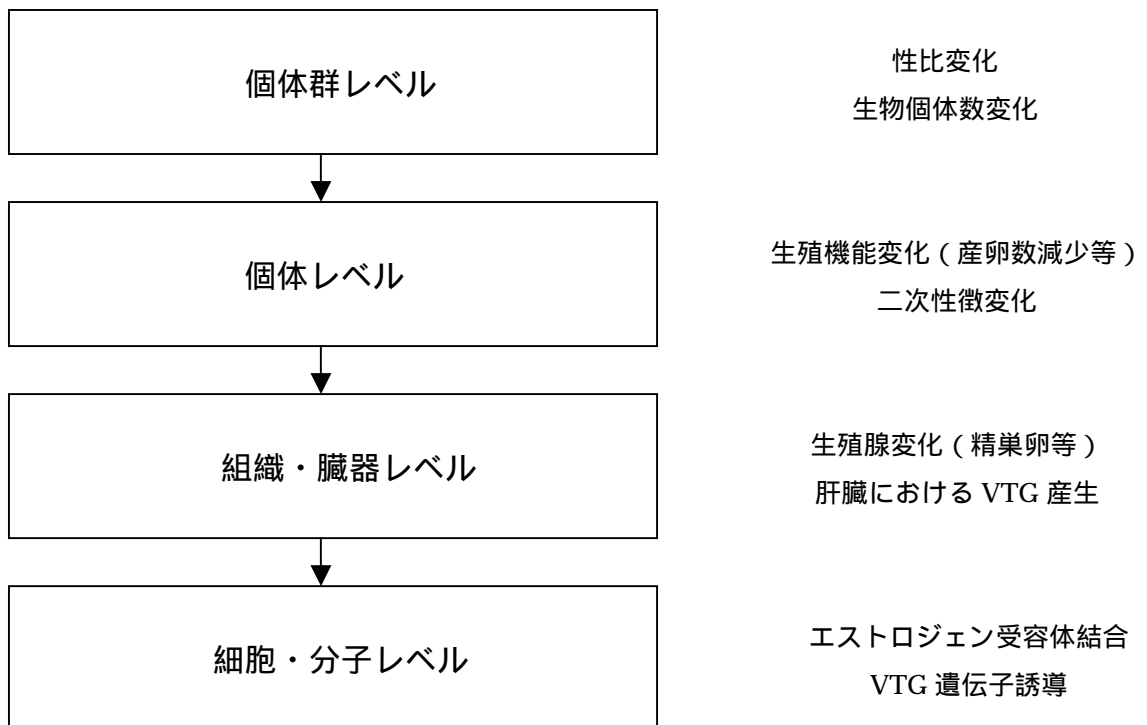
ExTEND2005 における平成 17 年度基盤的研究課題について

環境安全課

1. 基本的な考え方

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について -ExTEND2005-」においては、「観察された個体レベルでの事象が、内分泌かく乱を通しての一次的影響なのか、二次的影響なのかを見極めるためには、作用メカニズムについての知識が不可欠である。また、個体レベルでの有害影響と細胞・分子レベルでの変化との関連性も明らかにしていく必要がある。」としている。

【エストロゲン様作用での例】



（図）内分泌かく乱作用の様々なレベルでの解明

2 . 平成 17 年度基盤的研究課題

- 課題 1 エストロジェンによるメダカ精巣卵の誘起機構解析
- 課題 2 メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究
- 課題 3 イトヨによる化学物質の内分泌かく乱作用の評価手法の研究
- 課題 4 メダカアンドロジェン受容体結合性試験の確立
- 課題 5 両生類における変態のメカニズムに関する研究
- 課題 6 ミジンコにおける内分泌かく乱作用発現のメカニズムに関する研究
- 課題 7 哺乳類試験において観察される変化についての研究